

ARASHIYAMA ELEMENTARY SCHOOL
学校便り　学校評価号
嵐山だより

令和８年１１月
京都市立嵐山小学校
校長　鎌田　真行

令和８年度　前期学校評価アンケート結果のお知らせ

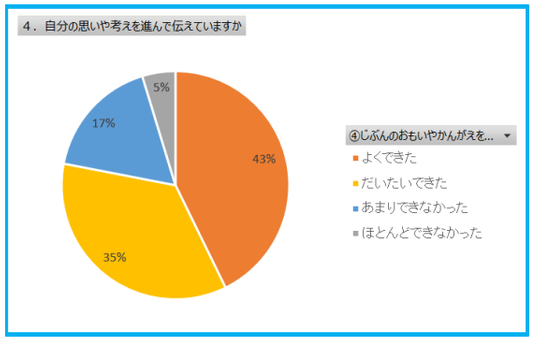
<学校教育目標>
自ら関わり、ともに支えあい学びにチャレンジする子どもの育成
～友だち大好き　学校大好き　地域大好き　嵐山の子～

※端数処理の関係によりアンケート数値の合計が100%になっていない場合があります。

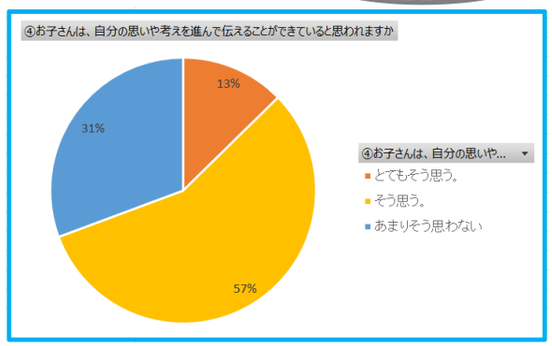
向寒の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育推進のためにご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。保護者の皆様にはお忙しい中、「令和８年度前期学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。集計結果を考察します。

確かな学力

<児童>



<保護者>



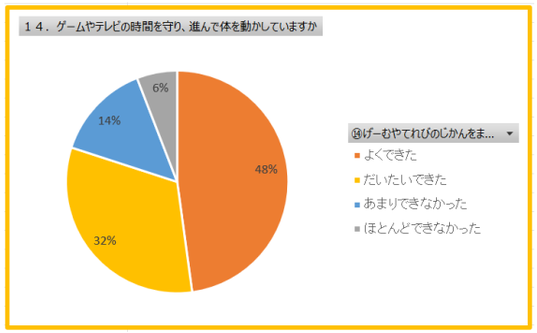
今回のアンケートでは、「自分の思いや考えを教室で伝えられていますか」という質問に対して、**78%の児童が肯定的に回答**し、昨年度とほぼ同じ結果となりました。また、保護者アンケートの「お子さんは自分の思いや考えを進んで伝えることができていると思いますか」という質問では、**70%の保護者が肯定的に回答**しており、昨年度より増加しています。教職員からも、子ども同士のトラブルや困りごとがあった際に、「まずは自分で先生に話してごらん」と**背中を押してくださる保護者が増えているという**声が聞かれています。

自分の考えを自分の言葉で伝える力は、学習や人間関係の基盤となる大切な力です。教育心理学の研究でも、失敗を恐れず発言できる**心理的安全性**の高い環境は、子どもの**主体性や学習意欲の向上**につながることが示されています。そのため学校では、**安心して発言できる学級づくり**を進めるとともに、授業や学校生活の中で**短時間でも継続的に対話する機会**を設け、表現力の育成に取り組んでいます。

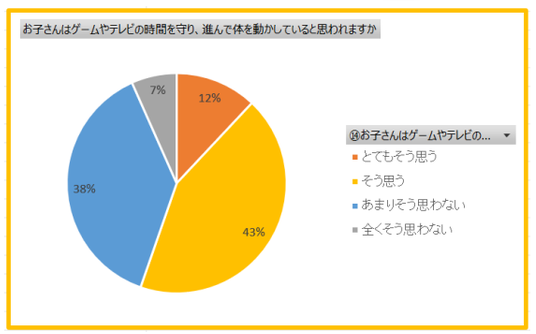
ご家庭でも、お子さんがどんな些細なことでも自分の言葉で思いや考えを伝えようとしたときは、ぜひその姿を認めて褒めてあげてください。そして、「どうしてそう思ったの？」と**理由や気持ち**を丁寧に聞いていただくことで、子どもは自分の考えを整理し、より豊かに表現する力を身に付けていきます。学校と家庭が連携して、子ども達の**伝える力**を育んでいきます。

健やかな体

<児童>



<保護者>



「ゲームやテレビの時間を守り、進んで体を動かしていますか」という質問に対して、**80%の児童が肯定的に回答**しており、昨年度より**8ポイント向上**しました。

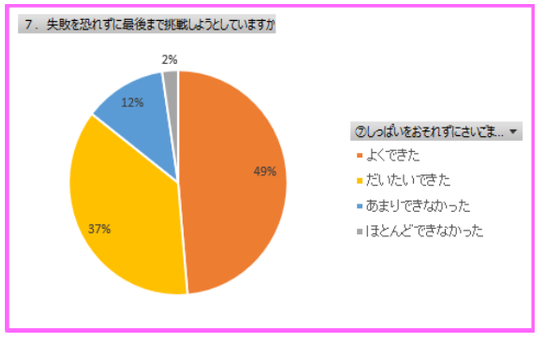
一方、保護者アンケートでは、「お子さんはゲームやテレビの時間を守り、進んで体を動かしていると思いますか」という質問に対し、**肯定的な回答をしている保護者は 55%**にとどまりました。児童と保護者の回答には **25 ポイントの差**があり、メディア利用時間や運動習慣に対する**認識の違い**がうかがえます。

近年の研究では、スマートフォンやゲーム機の利用時間が長い子どもほど就寝時刻が遅くなり、**睡眠不足や日中の集中力低下**につながりやすいことが明らかになっています。また、適度な運動は体力向上だけでなく、**心身の健康や学習意欲の向上**にも効果があるとされています。そのため、**メディア利用と運動のバランス**を整えることが大切です。

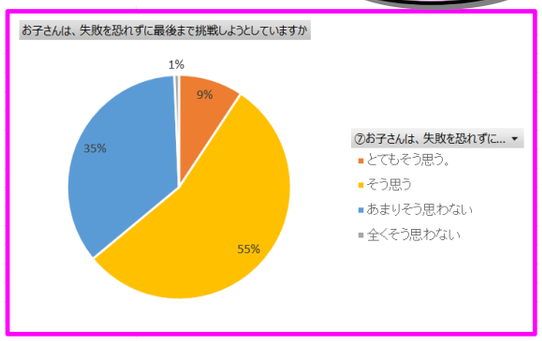
学校では生活調査を実施し、**子ども自身が生活を見直す機会**を設けています。また、休み時間には縦割り遊びや委員会主催のリレー大会などを子ども達自身が企画し、実施しています。さらに、放課後はできる限り校庭を開放し、ボールや竹馬などの遊具を使って子ども達が自由に体を動かして遊べるようにしています。ご家庭でもスクリーンタイム機能などを活用して**利用時間を「見える化」**するとともに、外遊びや散歩、スポーツなど楽しく体を動かす機会を増やしていただければと思います。

豊かな心

<児童>



<保護者>



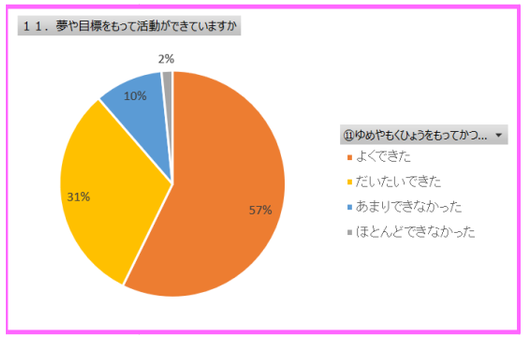
今回のアンケートでは、「失敗を恐れず最後まで挑戦しようとしていますか」という質問に対して、**86%の児童が肯定的に回答**しており、昨年度に引き続き高い水準を維持しています。これは、日々の授業や学校行事、係活動などの中で、一人一人が自分の目標に向かって挑戦する機会を積み重ねてきた成果の表れと考えられます。

一方、保護者アンケートの「お子さんは失敗を恐れずに最後まで挑戦しようとしていますか」という質問では、**肯定的な回答をしている保護者は 64%**にとどまりました。**36%の保護者が否定的に回答**しており、挑戦する力の育成には継続的に学校と家庭が連携して取り組む必要があります。また学校では意欲的に活動していても、家庭では失敗への不安から新しいことに挑戦することをためらう姿が見られるなど、場面によって子どもの様子が異なることも考えられます。

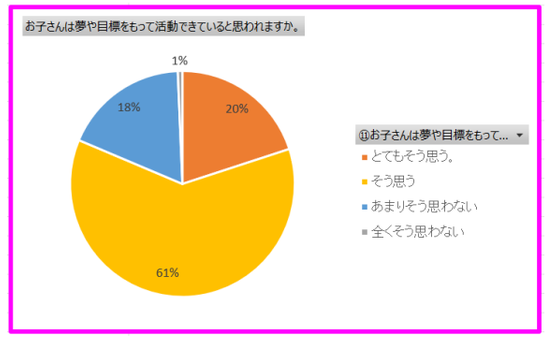
近年の教育心理学では、子どもの挑戦意欲や粘り強さは、生まれつきの能力だけでなく、**周囲の大人の関わり方**によって育まれることが明らかになっています。特に、結果だけでなく**努力や工夫の過程**を認められた子どもは、自分の成長を実感しやすくなり、次の挑戦への意欲を高めることが分かっています。そのため、子どもの成長を支える上では、「できたかどうか」だけでなく、「難しいことにも挑戦した」「最後まで諦めずに取り組んだ」という過程を評価することが大切です。

また、失敗は決して避けるべきものではなく、成長に欠かせない学びの機会です。失敗の原因を考えたり、改善策を見付けたりする経験を通して、子ども達は**問題解決力**や**粘り強さ**を身に付けていきます。だからこそ、**失敗することも大切な学習経験**として捉える必要があります。大人が先回りして失敗を避けさせるのではなく、挑戦を温かく見守り、**努力の過程を認めること**が、子ども達の主体的に学び続ける力を育むことにつながります。学校でも今後さらに、安心して挑戦できる環境づくりを進めていきます。

<児童>



<保護者>



今回のアンケートでは、「夢や目標をもって活動できていますか」という質問に対して、**88%の児童が肯定的に回答**し、昨年度に引き続き高い水準を維持しています。また、保護者アンケートの「お子さんは夢や目標をもって活動できていると思いますか」という質問では、**81%の保護者が肯定的に回答**しており、昨年度と同様の結果となりました。

一方で、子ども達が夢や目標をもてなくなる要因として、「将来の姿を具体的にイメージできない」「成功体験や達成感を味わう機会が少ない」「自分の成長を実感できない」「学習していることと将来の生活や仕事とのつながりが見えにくい」ことなどが挙げられます。そのため、単に将来の夢を考えさせるだけではなく、日々の学校生活の中で目標を設定し、その達成に向けて**努力する経験を積み重ねること**が重要です。

教育心理学の研究では、「大きな夢」そのものよりも、**達成可能な目標に取り組み、成長を実感する経験の積み重ね**が、自己効力感や学習意欲を高めることが明らかになっています。小学生の時期は、将来の職業や生き方を具体的に描くことが難しい場合もありますが、「昨日より漢字を多く覚えられた」「苦手な縄跳びの練習をした」といった**小さな成功体験の積み重ね**が、「自分はできる」という自信につながり、将来への希望や挑戦する意欲を育みます。

学校では、子ども達が目標を立て、その達成状況を振り返る機会を大切にしています。ご家庭でも、結果だけでなく**努力や成長の過程**に目を向け、「頑張ったね」「前よりできるようになったね」と声をかけていただくことで、子ども達は自分の成長を実感しやすくなります。学校で目標を立て、家庭で励まし、学校で振り返るというサイクルを大切にしながら、子ども達が夢や目標をもち、**主体的に未来を切り拓く力**を育んでいきたいと考えています。

<保護者の皆様より>

嵐山小学校では、子ども達に失敗から学び、自分で考えて行動できる力を身につけてもらうために、学校生活の中で自分のことは自分でするように指導・支援をしています。自由記述欄では、これまでの子ども達の成長をふり返って、どのような力が身についてきていると感じられるか。また、どのような力を身につけてほしいかについてお伺いしました。

【身についてきている力】

〇保育園の時とは違い、忘れ物をした時など先生の方から気付いてもらうのではなく、**自分からどうするべきか先生に相談したり考えたりできる**ようになった。(1年)

〇失敗することを恐れて、石橋を3回以上たたくタイプですが、**まずはやってみる!という気持ちを大切に動けている**ように思います。今後もその気持ちは忘れずに成長していってほしい。(2年)

〇忘れ物チェックシートがあり、**忘れ物をしないように前日に用意する習慣**がついています。予定表に書いていない持ち物も覚える。覚えられない時はメモするなど失敗から学んで工夫できている。(3年)

〇忘れ物することや、失敗を嫌がる性格ですが、そんな時に先生に伝えられたり、**友達に助けを求められる**事が泣いたりせずに出来るようになってきた。(4年)

〇クラスや委員会での活動や宿泊学習で、**リーダーシップを取ることや、協力し合うこと**について、良く考え行動できるようになった。(5年)

〇忘れ物に気をつけたいと本人が考え、帰る前のチェックリストを作っていました。そのリストを実際に使って効果が出ています。**自分で解決しようとする力**が身についてきた。(6年)

【身につけてほしい力】

【たくましく生きる力】	【他者とよりよく生きる力】	【賢く課題を解決する力】
・自分で考え行動する力	・人の立場に立って考える力	・多面的に物事を考える力
・自立して生活する力	・共感力	・柔軟な発想力
・諦めない心(折れない心)	・違いを受け入れ尊重する力	・協力して問題解決する力
・やり抜く力	・コミュニケーション能力	・先を見通す力
・失敗を恐れず挑戦する力	・自分の意見を伝える力	・情報を見極める力
・失敗から学ぶ力	・助けを求められる力	・ポジティブな思考力

<9月11日(金)人権教育参観のご感想より>

〇たくさん子どもたちの意見が出る中で、みんなと遊ぶのが正しいように意見が転ぶのではないかと思っていたが、お互いを知らないから一緒に遊ぶのが嫌なんじゃない？自己紹介してみたら？プレゼントをあげたら？など、**相手の気持ちに配慮した意見**もあって良かった。(1年)

〇人権問題は答えがなく難しい。しかし、人として生きていくにあたり最も重要なカテゴリーだと思う。正解がないからこそよく考え、友達の意見を聞き、新たな考えを受け入れることでより理解が深まるのではないかと思う。これからより多感な年齢となり、親としても心配なことが増えてくる。家でも学校でも**自分自身と周りを大切に思える心**を育んでいきたい。(2年)

〇ジェンダー教育は私達が子どもの頃はなかったように思う。**それぞれの人が好きなように生きていくこととそれを認め合うこと**、日本ではなかなか認められない時代が長かったように思う。今の子ども達が大人になった時、そういう事が当たり前の時代になっていてほしい。(3年)

〇国際理解の人権学習という、文化だけでなく宗教的についても話し合っており、**インバウンド・アウトバウンド**どちらにも関わる内容で感心した。(4年)

〇情報モラル教室、今の時代、この年齢で、みんなで考えてほしいことを授業にしていただいたとありがたく思う。**SNS に触れずに生きる事は難しい。その中で、正しく使うには?**と考える子ども達の意見交換を拝見でき、子ども目線の意見も知る事ができ、勉強になった。(5年)

〇被災した場合、どこに逃げるか、何をもって行くか、家族との連絡方法などは話し合ったことはあるが、確かに被災して自分も被害者の場合、**人に優しくできるのか、相手の立場になれるのか**なども話をしてみるのも大切だなと感じた。(6年)

〇ユニバーサルスポーツがもっと広がってほしいと思った。その上で、**差別と区別を混同しないこと**も大切だと感じた。(つくし)



児童が学校で回答している児童アンケートの項目は、保護者の方へのアンケート内容と同内容で年に２回実施しています。いつも貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。アンケートの質問にも出ていた夢や目標は、何度も失敗や修正を繰り返しながら育っていくものです。**子ども達が夢や目標をもって自分の人生の主人公として生きていくために、大人にできる最も重要なことは、「子どもの可能性を信じ、自分で考え、決め、挑戦する機会を保障すること」**だと思います。夢や目標は、大人が与えるものではなく、子ども自身の中から育ってくるものです。そのために、**学校・家庭・地域が、「失敗しても大丈夫」「あなたには可能性がある」「自分で決めていい」というメッセージを送り続けること**が、子どもたちの夢や目標を育てる最も大きな力になるのではないかと思います。